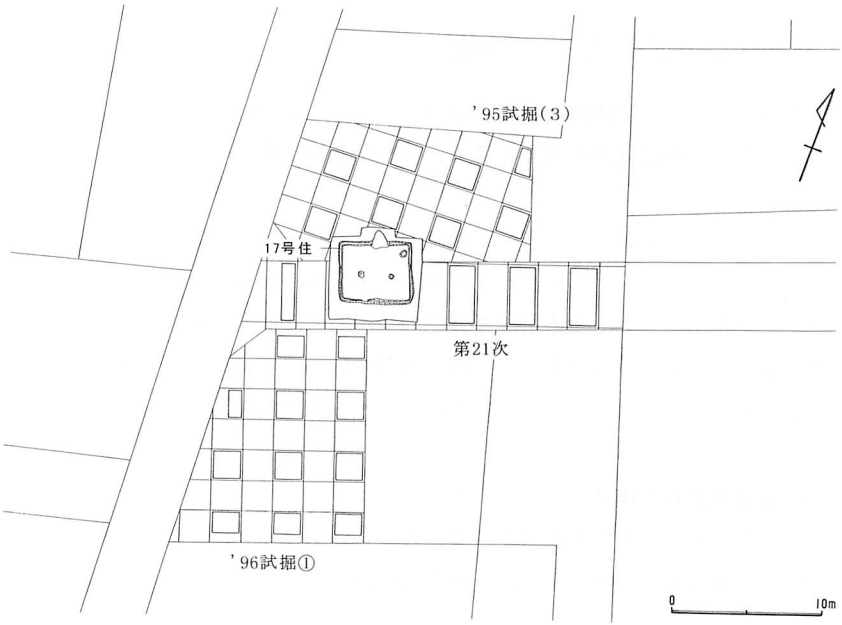

第８－14図　松山遺跡第21次遺構配置図〈１／500〉

土している。住居の時期は出土土器から７世紀第４四半期になると思われる（文献65）。

出土遺物（第８－13図）は、続比企型坏（１・２）、土師器甕（３）、須恵器盤（４）、土師器甕底部破片（５）である。

松山遺跡1995年試掘調査（2）16号住居跡（第８－１図）

住居の覆土である黒褐色土とカマドらしき粘土を含む焼土塊を確認した。全体の規模は不明。続比企型坏や土師器甕の破片が出土している。時期は７世紀第４四半期（文献61・本書）。

松山遺跡第21次17号住居跡（第８－14図）

東西４ｍ80、南北４ｍの長方形。周溝は全周する。カマドは北壁中央やや東よりに設置されている。柱穴は２本確認されている。続比企型坏や土師器甕の破片などが出土している。７世紀第４四半期のものと思われる（文献62・本書）。